

とちぎ義博 議会レポート

第9号 2001年新春号

発行者：福岡市議会議員 栃木義博
〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-3-13-305
TEL.845-7669 FAX.845-8511
E-mail:tochigi@bronze.ocn.ne.jp

11年度決算特別委員会(11月27日)
12月定例議会(12月11日)
の質問から

高齢者・障害者対応の公営住宅政策

栃木 今後の市営住宅の需要は9340戸と見込まれていますが、一方で市営住宅の当選辞退者が3割にも上り、市民のニーズとのズレが生じています。全応募世帯の4分の1を超える高齢者世帯や、障害者世帯に対応した公営住宅政策をハード・ソフトの両面で担当部局の壁を越えて進めるべきと考えますが、いかがですか。

2月募集予定の「筥松第2住宅」のように、居住者の障害の程度に合わせて居室改造ができる「ハーフメード」方式は評価できますが、今後、老朽化が進む市営住宅の建て替えを含む修繕維持費などのコスト負担増のカーパーは、現行制度では限界があります。どのように対処しますか。また民間住宅の活用についてどのように考えますか。

高齢者対応重点に、保全と質向上

福岡市 立地条件など、市民のニーズを考慮した住宅の再配置を検討していく。また、今後は高齢者に対応した仕様の充実を重点としつつ、健全なコミュニティーを育てるために、特定の年齢層に偏らないよう、利便施設などについても配慮する。

1970年代の大量供給期の建て替え期が目前に迫っている。どう対応すべきか検討しているが、民間住宅の借り上げなどの手法もケースにより採用。公営住宅政策としては、量よりも保全と質の向上を方向性として取り組む。(答弁＝大森建築局長)

福岡都市高速道路の供用開始時期

栃木 議案では福岡都市高速道路整備計画の総予算が330億円増額され、8590億円になっています。1号線の百道一福重、4号線の粕屋一福岡インターチェンジ(IC)の供用開始



新年あけまして
おめでとうございます

11月と12月の議会で、栃木義博が行った質問の一部を紹介いたします。スペースの都合上、限られた内容しか掲載できず残念です。ご意見や質問は、はがきやメールのほか、毎週月曜日午前7時15分から1時間半、西新橋山崎交差点での立ち立ちで話している市民との直接対話の時間にお寄せください。

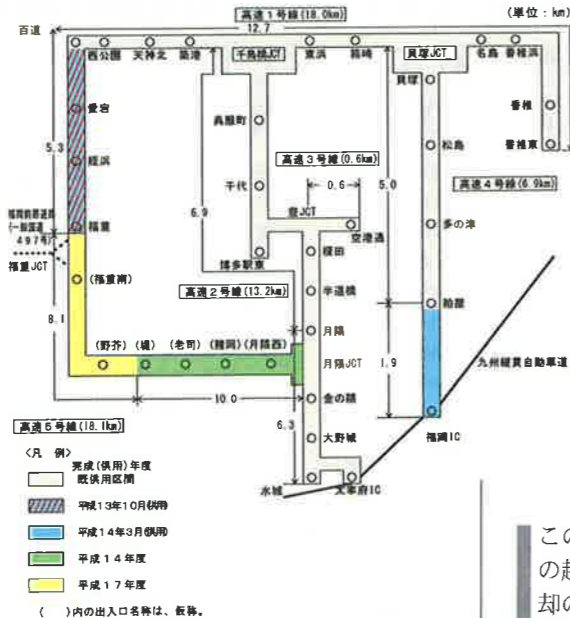
- ・福岡市営住宅政策について
- ・福岡高速道路供用開始について
- ・アイランドシティ交通インフラについて

時期と、これに伴う利用台数の予測、及び、現在激しい渋滞が続く百道ランプへの影響について明らかにしてください。

尼崎公害訴訟の和解案に示されたとおり、環境対策の面から、自動車公害に対する規制強化は時代の流れです。自動車が生み出す社会的な費用の負担増を念頭に置けば、高速道路経営に当たっても「ロード・プライシング」の実施など、総合的な交通政策が必要と考えますが、市長の考えを質します。

福重までは来年10月、渋滞緩和期待

福岡市 百道一福重は平成13年10月に、粕屋一福岡ICは14年3月に供用開始。福重までの供用で1日当たり9000台が、福岡ICまでの供用でさらに5000台、利用台数が増加する見込みで、福重までの伸延により百道ランプの1日当たりの利用台数が、現在の3万5900台から、1万5100台になり、渋滞緩和が期待できる見通し。



高速道路経営に当たり管理費など経費節減につとめると共に、環境対策について環境基準を遵守していく。

(答弁＝山崎市長、藤井土木局長)

東区アイランドシティの機軸交通

栃木 平成14年から分譲が開始される東区のアイランドシティの交通インフラは、何が機軸となりますか。また交通利便性をどう図っていきますか。

また当該地区のまちづくりにあたっては、土地利用計画や市の指導があいまいなために、超高層マンション建設問題などのトラブルを生んでいるシーサイドももち地区の教訓を生かし、土地利用、まちづくりの実効あるルール策定が必要です。どのように取り組んでいきますか。

鉄道に宮地岳線、地下鉄乗り入れ

福岡市 鉄道を機軸とし、西鉄宮地岳線、地下鉄との相互乗り入れを通してスムーズな交通アクセスを確保したい。

アイランドシティは21世紀の福岡市が、どのような都市像を描くかということであり、建築基準法などの制度を活用して、市も主体的にまちづくりに取り組む。周辺環境との調和や、魅力的な街並み形成など、計画的なまちづくりに指導力を発揮していく。(答弁＝山崎市長、前港湾局長、大都市整備局長、大森建築局長)

このほか、自治体の課税自主権、百道浜の超高層マンション建設問題と用地売却の経緯についても質問しました。

「一緒に話そう」 二十一世紀の 暮らしを展望する

いよいよ新しい世紀の幕開けです。今回は、経済学者の立場から激動の二十世紀を見つめてきた九州大学教授の福岡久大さんと、消費生活アドバイザーの久留百合子さんがゲスト。二十世紀のモノの豊かさを財産として、新しい世紀をどう生きて行くのか——三人で熱く語り合いました。



福留 久大さん 1941年生まれ。九州大学経済学研究院教授。専門は経済理論及び福祉政策。二男二女の父。
久留百合子さん 1951年生まれ。(有)BISネット代表取締役。消費生活アドバイザー。二男の母。
栃木 義博

栃木 二十世紀、特に戦後の日本を振り返って二十一世紀を展望すると社会はどう変わると思いますか。
福留 日本はモノづくりを核にした集団的同調主義の社会で驚異的な経済成長を遂げましたが、一方で地球の温暖化や教育問題をはじめ、さまざまな不みが生まれました。成熟社会となる二十一世紀の日本は人間関係を社会的に再構築していく社会だと思います。
久留 モノの豊かさが人間の幸せではないと二十世

紀も末になって日本人はやつと気付きました。モノの豊かさを使いこなして人と人との関係に役立てていくことが大切になりますね。
福留 この場合の「人間関係」とは、少子高齢社会の介護や医療、雇用、教育から、

国と地方との関係、広くアジアとの関係などの外交問題も含まれます。「豊かさの意味転換」を踏まえて、再構築のための社会の基盤をどの

「人間関係を視点に社会を再構築する時代」——福留

政策決定は生活者感覚で
久留 国の福祉政策にしても生活者のニーズとずれているものがたくさんあります。生活者主権というか、

国と地方との関係、広くアジアとの関係などの外交問題も含まれます。「豊かさの意味転換」を踏まえて、再構築のための社会の基盤をどの

久留 その中で大切なのは個の確立、つまり自己決定と自己責任の一方で、他者の意思や尊厳を認める姿勢だと思っています。
福留 自己決定、自己責任の下に活力ある社会を築くには、安心して競争できる社会の基盤をつくっていかなくてはなりません。人生が常に先行き不安では、萎縮して競争どころではなくなりません。

栃木 安心して暮らせる社会の基盤のひとつが地域社会。例えば地域の新しい人間関係を育てる「エコマネー」のような、介護や子育てを担う地域再生の仕組みづくりを打ち出していかなくてはなりません。
政策決定は生活者感覚で

安心して競争できる社会
久留 自己決定、自己責任の下に活力ある社会を築くには、安心して競争できる社会の基盤をつくっていかなくてはなりません。人生が常に先行き不安では、萎縮して競争どころではなくなりません。

自己責任と、他者との違いを認め合う社会に——久留

ように築いていくかが焦点ですね。

政策は生活者に極力、近いところで決定していくべきですね。
福留 アメリカの自治体では議会に議会予算局があって行政から独立して機能しています。社会のシステムとして行政と議会のけじめがつけられている訳です。
久留 市議会議員は市民の代弁者ですから、市民が

安心して暮らせる地域社会の仕組みづくりを——栃木



21世紀は 元気印から成熟の福岡市へ

福岡市議会議員 栃木義博

論点

元気印の福岡市。二十一世紀には市民の生活実感に見合う大きさの成熟した都市(まち)へと生まれ変わります。
その大きさが、九八年十一月の選挙で新しい市長の誕生と、翌九九年四月の統一地方選挙で私たち民主・市民クラブの三人を含む新人議員十五名の大量当選です。その後「民間の経営改革を役所に」と職員意識改革運動がスタート。十大公共事業のうち四事業が凍結や規模縮小になりました。
新人議員で迎える新世紀初年のわたしの望みは、市民の生活現場に足を運び、その思いや願いを「成熟都市ふくおか」の政策や条例などの形にできる議員に成長することです。
皆様の多幸を祈念いたします。

ら行政と同じように見えてしまうのでは何もありません。二十一世紀の初頭は、政治を含め社会のさまざまな分野で必要な改革について徹底的に議論することから始めたいと思います。
栃木 二十一世紀は身の丈にあった暮らしのサイズを議論し、選択する「大人の社会」。市議の一人として、市民の声を条例に生かす「ロー・メーカー」としての議員を目指します。